

実験の奥深さ

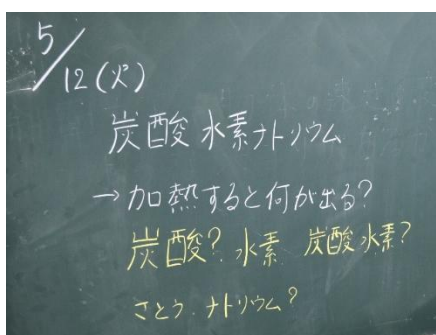
校長 武井 正明

先日2年4組、今春赴任された渡邊先生の授業を参観させていただきました。

「吉田中の毎日が楽しいです!!」と話す渡邊先生。吉中に新しい息吹を吹き込んでくださっています。生徒に対して穏やかに話し掛ける笑顔で、理科室が安心感に包まれます。



偶然理科室の傍を通りかかった土田先生にお願いして、実験について私がわからない所を質問しながら一緒に参観させていただきました。



授業は重曹にベーキングパウダーを混ぜたものを加熱する流れ。「加熱すると何が出る?」でした。

そこで私がわからなくなったのは、重曹+ベーキングパウダー=炭酸水素ナトリウム?という疑問です。我慢できず、ついつい授業中に渡邊先生に質問してしまいました。

子どもって、実験は好きなんだけれど、実は何を実験しているのかチンプンカンプンだったりします。実験の意味や内容が理解できていないといけないのではないかとその日まで思っていました。

土田先生は「私ならこの授業はカルメ焼きを作って終わりにします。そして次の時間に、実験での状態を思い返しながらか『なぜ膨らんだのだろう?』という感じで一緒に学習課題を考えていきます」と仰いました。

私は驚きを禁じ得ませんでした。教務室に戻って、専門科目が理科の山本教頭に同じことを訊くと同様の答えが返ってきました。



そうか…。その時は意味が解らなくてもいいんだ。実験を振り返って何だったのかと検証するところから進める手法があるんだ。実験をどう位置付けるか、どう繋げるかで授業も変わってくるのだなあと感じました。

年輩の先生方は昭和、平成、令和と3つの時代を生き抜いてこられた方々です。時代が変われば国が求める教育も変わります。その度に変化を迫られた世代です。だからこそ、いろんな引き出しを持っています。

私は4月最初の会議で、ベテランの先生方に「皆さんの授業技術を出し惜しみせず、これからの先生方に伝授してください」とお願いしました。

若手中堅の先生方に、ぜひとも先輩の技を積極的に吸収してもらいたいです。